

現状（平成 31 年度）

昭和 32 年 12 月に給水人口 9,000 人、計画一日最大給水量 1,350 m³/日で給水を開始しました。その後、需要水量の増大、給水区域の拡大に伴い、施設を拡張しました。昭和 58 年からは福岡地区水道企業団、平成 28 年からは北九州市水道用水供給事業より受水を開始し、現在に至っております。

管路を始めとした一部の水道施設に経年設備があり、更新の必要があります。

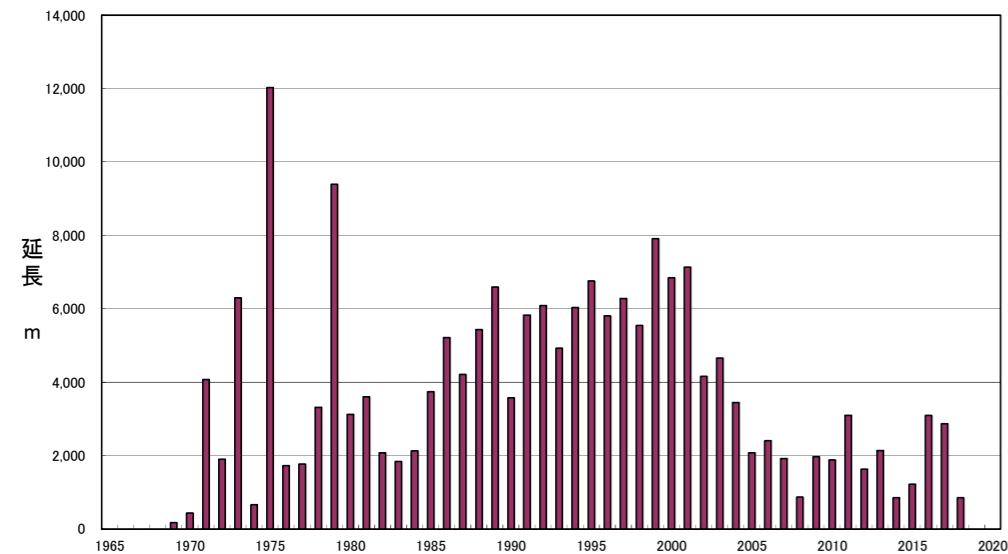
浄水施設

計画浄水量	12,200 m ³ /日
最大浄水量	5,276 m ³ /日
最大浄水施設稼働率	43.2 %

水源内訳（計画）

受水	
福岡地区水道企業団	8,600 m ³ /日
北九州市水道用水供給事業	3,000 m ³ /日
自己水源	
古賀ダム	2,000 m ³ /日
大根川	2,400 m ³ /日

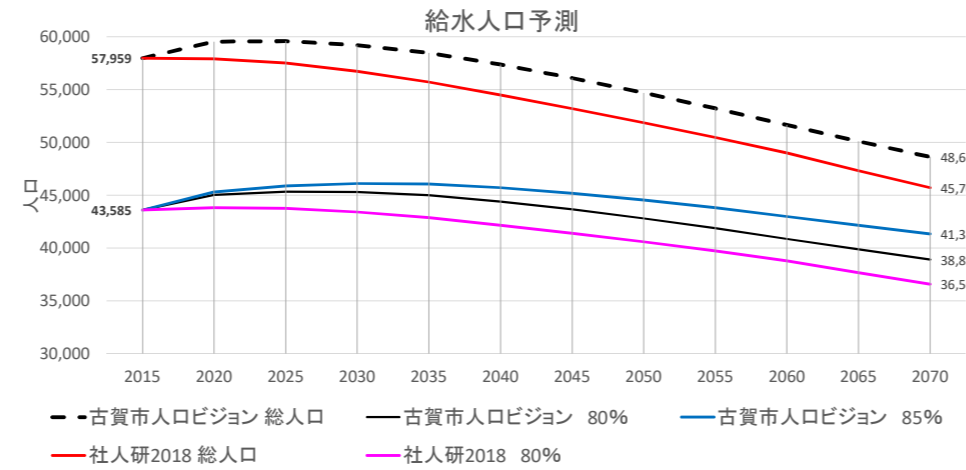
管路布設年度別延長



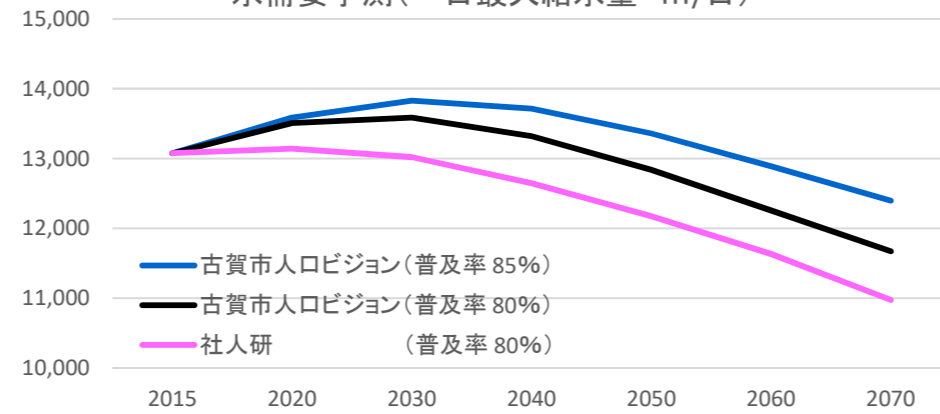
将来予測

古賀市の総人口は近年微増傾向にあり当面は緩やかな人口増が期待されますが、将来的には減少すると予想されています。将来人口は、古賀市が推計した「古賀市人口ビジョン」及び「国立社会保障・人口問題研究所（社人研）」によるものを検討しています。

給水率は、現在、総人口に対して 75%程度ですが、将来的には 80%を予想し、古賀市人口ビジョンにつきましても 85%の場合についても検討しました。



水需要予測（一日最大給水量 m³/日）



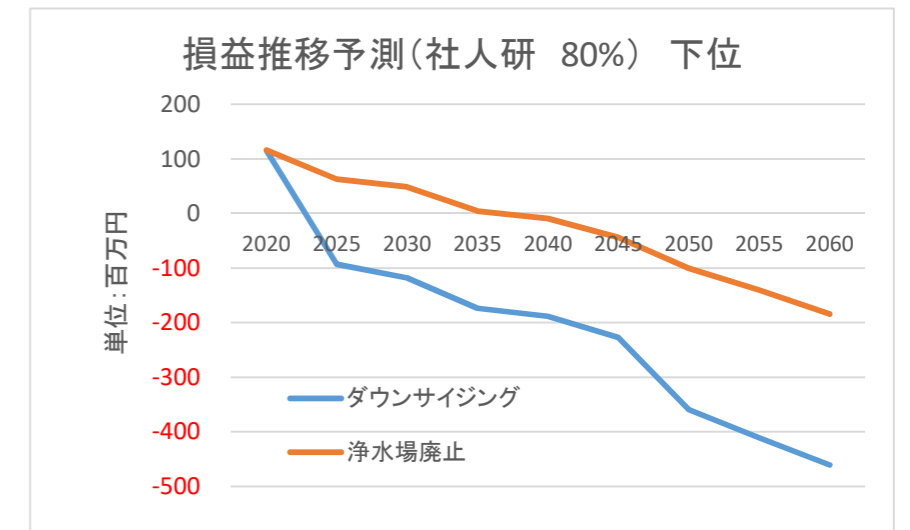
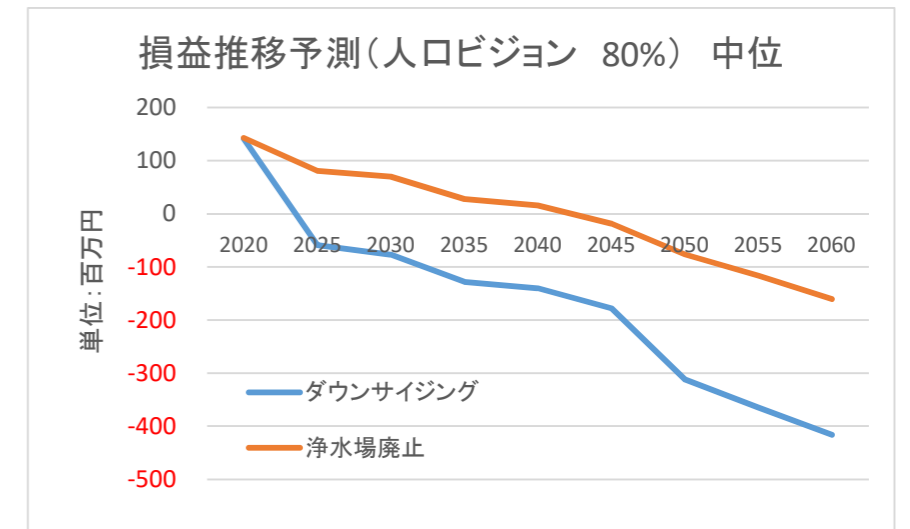
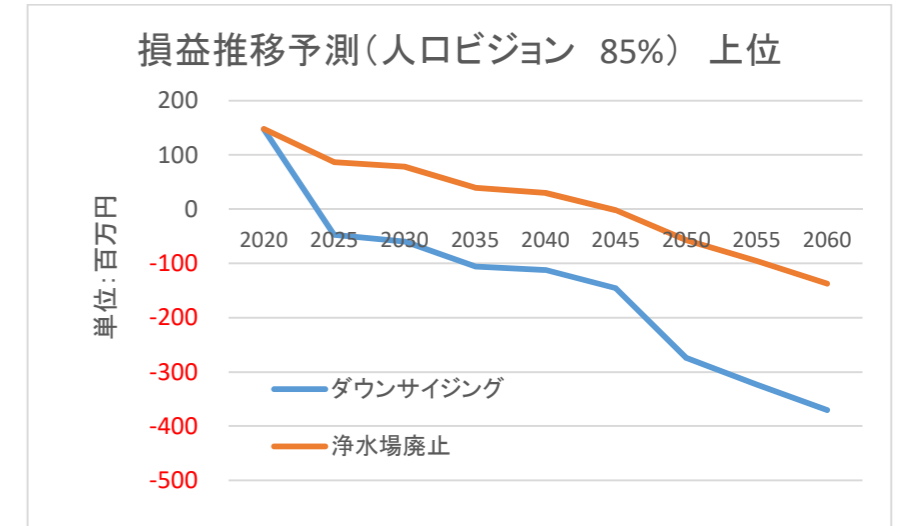
古賀市水道施設図



損益

今後 40 年間の損益の推移を示したものが次のグラフです。

料金収入の基本となる給水人口については、古賀市人口ビジョンの 80%へ給水する場合を中位、85%へ給水する場合を上位、社人研将来推計総人口の 80%へ給水する場合を下位としました。これらの給水人口に、一人一日当たり給水量(300ℓ)に現在の給水単価を乗じて算定しております。



水は人が生きていくうえで必要不可欠なもので、コロナ禍における手洗いや、災害時の避難所生活でも重要な役割を果たしています。その水を提供している水道事業は、数十年単位の長い視点で水道施設の新設や更新などを行っていかねばなりません。

本市の浄水場は昭和49年に建設され、すでに46年が経過。まもなく更新の時期を迎えますが、今後の人口減少や節水意識の向上から、水道料金収入は減少する見込みです。また、昭和53年の福岡大洪水を教訓に、本市は筑後川からの受水を増やすなどの対応をしており、現在浄水場で作っている水は全体の4分の1程度で、施設の処理能力の40%弱しか使用していません。

これらに対応していくためには、水道施設を適正に維持管理しながら、皆さんの負担が大きくならないよう、最も効率的で効果的な運営が必要です。

今回の水道ビジョン策定に際し、人口は3パターン、浄水場のあり方についてはダウンサイジング、廃止（全量受水）の2つの観点から今後40年間の費用損益で検討を行いました。結果は、いずれのパターンでも「廃止」が最も費用がかかりませんでした。しかし、浄水場の廃止では、水道料金が抑えられる一方で、災害時などに不安を抱える人もいるかもしれません。

福岡市に近接し、最近の人口動向は微増傾向にありますが、2030年頃からの減少に転じる見込みです。他方では、優良な工場が多く立地し、今後も発展が期待されます。いずれにせよ、今後の水需要予測は慎重に行う必要があります。

水は、お金に代えがたい貴重なものですが、その採算性も重要なものとなります。今少し、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

主な古賀市水道施設

水源

- 左 古賀ダム
- 右 大根川取水口



浄水場



配水池

- 左 医王寺配水池
- 右 立花第2配水池



古賀市水道ビジョン 概要版 令和2年12月

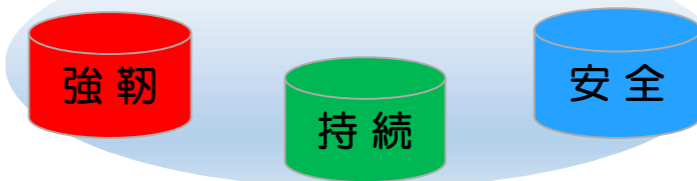
計画期間：令和2年（2020年）～ 令和11年（2029年）

水道の理想像

新水道ビジョン
厚生労働省

福岡県水道ビジョン

古賀市水道ビジョン



フォローアップ

本水道ビジョンは、策定することで終わりではありません。経営方針、水需要の動向、水源・水処理状況などを把握し、毎年度進捗管理（モニタリング）を行います。

また、PDCAサイクルを実施し、5年のスパンで見直し（ローリング）を行い、それらの結果は、短期・中期計画に反映させます。



方策

安全 いつでもどこでもおいしく水を飲める水道

- ・水質管理を徹底し、安全で清浄な水を確保します
- ・水道水源となるダム、河川を日常的に監視します
- ・水道施設を大切に運用し、適切な点検整備をおこないます
- ・これからも市民が安心しておいしく飲める水を守るため、水源から給水までの「水安全計画」を策定します

持続 これからも健全で高度な運営ができる水道

- ・自己水源を活用した適正規模の取水、浄水施設の構築、または浄水場を廃止し全量受水切替えを含めた検討を進めます
- ・人材育成と技術力を強化します
- ・水道事業の効率化、質を向上させるため、民間委託の進め方について検討します
- ・水道事業の現状や課題を古賀市ホームページでお知らせします

強靱 災害に強く、たとえ被災しても素早く復旧できる力強い水道

- ・過大で古くなった水道施設のダウンサイジングや耐震性も備えた強い施設への更新を検討します
- ・現有する緊急時給水施設を今後も適正に維持管理します
- ・万が一の危機発生時でも、スムーズな危機対応が可能となるよう努めます
- ・地域応援協定による緊急時協力体制を継続します